



こばやし・ももこ
 大学3年次に海外研修奨励制度に応募し、フィンランドのセイナヨキ応用科学大学に3週間留学。2014年東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻卒業。卒業後再びフィンランドに留学し、2016年12月にラハティ応用科学大学を卒業。ヨーロッパの看護師資格を取得。2015年からアルバイトとしてセイナヨキ・ヘルスセンターで働き、2017年からは正看護師として勤務。

卒業生の今 活躍する医科歯科人

海外で働く夢を叶え フィンランドで看護師に

セイナヨキ・ヘルスセンター
 registered nurse

小林桃子氏
Momoko Kobayashi

2014年に保健衛生学科看護学専攻を卒業した小林桃子さんは、現在、フィンランドの市民病院で正看護師として働く。日本のような国家試験がないフィンランドで看護師になるには、大学を卒業する必要がある。そこで、フィンランドの大学で看護学を学び、ヨーロッパの看護師資格を取得した。「当初は1年間留学する予定で



フィンランドに来たのですが、実習を受けているうちにこの国で働きたいと思うようになりました。日本の看護師資格はあるといっても、実務経験がないまま海外で看護師として働くことには不安もありました。でも、海外で働くことは子どもの頃からの憧れでしたから、とりあえずやってみようかと決断したのです」

小林さんは大学3年のときにも海外研修奨励制度でフィンランドに短期留学。帰国する頃には「この国で暮らしたい」という気持ちが強くなっていったという。

「わずか3週間でしたが、働くときには真面目に働き、休むときはしっかり休む。そして、自分と家族の時間を大切に、人生を楽しんでいるフィンランドの人たちに出会い、この国のことがすごく好きになっていました。フィンランド語も、私にはかわいらしく聞こえて楽しく学べました」

勤務先のセイナヨキ・ヘルスセンターでは、リハビリ病棟に勤務。ここでは2、3人の准看護師が患者さんの身の回りの世話をを行い、正看護師の小林さんはグループリーダーの役割を果たす。

日本と同じように高齢化が進むフィンランドでは、医療現場の人手不足を感じることもある。「忙しきとつい忘れそうになりますが、患者さんへの尊敬の気持ちを忘れないように」と話す。

「今、やっとスタートラインに立てました。まずはフィンランドで、看護師としての知識や技術を身に付けていきます」

日欧の看護師資格を持つ小林さん。それぞれの良いところを生かし、医療の質を高めることに貢献していきたいという。

「わが3週間でしたが、働くとき

「B

セイナヨキ・ヘルスセンター (Seinäjoki Health Centre)

外来、急性期病棟、リハビリ病棟で成りたっており、救急時を除いて基本的に、地域住民が1番最初に医療を受けるところである。より高度・専門的な治療が必要だと判断された場合、患者さんは中央病院または、大学病院で治療を受ける。

【セイナヨキ (Seinäjoki)】
 フィンランドの中西部に位置し、首都のヘルシンキから電車で約3時間。人口は6万人であるがフィンランド国内において、現在1番人口増加率が高い市となっている。

